

1 学校教育目標 鳥栖西中校区の教育目標 小中9年間を通して豊かな人間性と自立心を培い、生きる力をもった児童生徒を育成する 学校教育目標 ふるさとを誇りに思い、やさしく・かしく・たくましく生きる麓っ子の育成	2 本年度の重点目標 ◎子どもの「学び」を鍛える・学力向上 ・国語科と「教科日本語」で確かな言語力と豊かな日本語の獲得。 ・電子黒板とデジタル教科書の効果的な活用。 ◎子どもの「心」を鍛える ・鳥栖西スタイル「三拍」「あいさつ」「時間」「清掃」を大切に指導を行う。 ○子どもの「体」を鍛える
--	--

達成度 A: ほぼ達成できた
B: 概ね達成できた
C: やや不十分である
D: 不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

①子どもの「学び」を鍛える。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	学力向上	学習規律の定着ができたか	・「学習のめあて」の内容を検討し、学習への取組への指針とする。 ・「チャイム着席」「はいの返事」などを90%以上に、習慣化する。	・「休み時間に次の準備する」「話を聞く」「家庭学習を確実に」を3本柱として指導していく。 ・「ふもとっ子ががんばり習慣」を設定し、「ふもとっ子ががんばり表」で自分の学びを振り返らせる。	B	・3本柱を重視した取組を積極的に進め、定着ができたが、指導の継続が必要な児童が学級に数名いる。そのため、90%超に至っていない。	・「学習のめあて」の掲示物を有効に活用しつつ、個別指導を継続して定着を目指す。 ・「ふもとっ子ががんばり週間」を利用し、家庭への協力の呼びかけを強化する。
教育活動		基礎・基本の定着ができたか	・スキルタイムの充実を図る。 ・「家庭学習の手引き」を活用し、家庭学習の定着を図る。 ・学力向上を意識した学習を仕組む。 ・読書量1人平均年間75冊以上を目指す。	・ことばスキル、計算チャレンジ、すくすくテストを通して既習内容の定着を図る。 ・家庭学習の手引きを全校児童に配布し、保護者に協力を呼びかける。 ・本時のめあて、とめとめ意識した授業を行う。ことばや式を使って自分の考えを表現させる。	A	・スキルタイムやその後の指導を重視したため随分定着してきたが、個人差があり全体としての定着はあと少し。 ・「家庭学習の手引き」を使った啓発を行い、参考になる児童ノートを提示することで効果が高まった。 ・スキル差があるもの、読書量75冊はおおむね達成できた。	・確実な定着になるように、基礎・基本を繰り返し指導していく。 ・読書の質も問うようになり、良書を選ぶよう本の作者や内容を紹介して参考にさせる。
教育活動	ICT活用教育の推進	教員のICT活用能力は向上したか	・ICTを活用した授業に取り組む。 ・電子黒板の機能について研修し、授業に生かせるようにする。	・全教員がデジタル教科書やデジタルビデオカメラを活用した授業に取り組む。 ・校内研修会を夏季休業中に実施する。 ・電子黒板導入後、授業導入や考えの練り合い等で積極的に取り組む。	A	・デジタル教科書を積極的に活用し、学習内容の理解に寄与している。発表時や考えの交流時にも効果的に利用できた。	・電子黒板を起動させるパソコンの据え置きが必要である。 ・立ち上げに時間がかかり、スムーズに授業が流れないときがある。特に、国語や理科で時間がかかる。時短ができるような機能が必要。

②子どもの「心」を鍛える。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	心の教育	・道徳の時間の充実ができたか	・年間に1回以上、全ての学級で保護者や地域の方が参観することが可能なように道徳の授業を行う。 ・「いじめ・命の日の」取り組みとして、人権週年生命尊重の授業を行う。	・「私たちの道徳」を活用できるよう、道徳、人権、同和の年間計画を作成を見直し、児童の実態に応じた指導をする。	B	・ほとんどの学級で、保護者や地域の方が、参観できる道徳の授業を行うことができた。 ・「わたしたちの道徳」を年間指導計画の中に位置づけ、指導できた。しかし計画通りに実施できなかったところもある。 ・人権週間では、人権標語に取り組みと共に、全校児童に対して言葉遣いについての指導を行った。また、各学級でも各学年の実態に合わせて、指導を行った。	・計画的な実施をするために、これまでの実践や教材等の整理をして実践しやすい状況を作る。また、人権同和実践事例集の活用を図っていく。
教育活動	いじめ問題への対応	・いじめと命を考える日の取り組みの充実ができたか	・毎月10日に、心のアンケートを実施して、児童が安心して学校生活を送れるようにする。	・いじめ防止対策委員会を年2回開催する。 ・毎月10日「いじめと命を考える日」に児童対象のアンケートを実施し、児童の状況や気持ちを把握し、すぐに対応する。 ・得た情報にすぐに対応し、全クラスがアンケート用紙を職員室に保管して、児童の姿をつかむ。	B	・毎月10日「いじめと命を考える日」に児童対象のアンケートを実施し、児童の状況や気持ちを把握し、すぐに対応を行った。全クラスのアンケート用紙を職員室に保管して、児童の姿をつかんでいた。 ・すべての学級で、友達のおよび優しさを身につけ、紹介するよう実践してきているが、まだない言葉やかけたり、態度をとったりする児童がいた。	・アンケートの実施と共に、日ごろの児童観察により、児童の姿容に気を配っていく。 ・いじめ問題を未然に防止するために、グループエンカウンターなどを取り入れた居心地のよい学級づくりに取り組んでいく。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	健康・体づくり	・よりよい生活習慣の定着ができたか。	・給食後の歯磨き実施率を100%にする。 ・目標就寝時刻を守る子どもを70%以上にする。 ・毎月1日の「ノーテレビデー、ノーゲームデー」の取組率80%以上にする。	・麓っ子ががんばり表を活用し、継続的な指導を行う。 ・ノーテレビデー、ノーゲームデーの家庭での取組のアンケートを実施し、各家庭への啓発を強化する。	A	・給食後の歯磨きについては担任の指導や、チェック表の活用などによって概ね実施できていた。 ・就寝時刻については目標を達成できた。 ・ノーテレビデー、ノーゲームデーの実施率については目標を達成できた。	・引き続きがんばり表を活用し、継続的な指導を行う。 ・健康や生活の授業を計画的に行い、歯磨きや睡眠の重要性を指導する。 ・ノーテレビデー、ノーゲームデーについてのアンケートの回収率が下がっているので、新たな方法を考えるべきである。
教育活動		・体力の向上ができたか。	・天気が良い日は95%以上の子どもが1日1回は休み時間、外で遊ぶようにする。 ・スマイルタイムの実施を毎月1回以上とする。	・学級で全員一緒に遊ぶ日を設定したり(週1回程度)1日1回外遊びの声をかけたりする。 ・スマイルタイムを通して、運動の楽しさを味わわせたり、遊びの幅を広げたりする。 ・各種お便りによる保護者・地域への啓発を行う。(学校だより、給食・食育だより、保健だより、学級通信など)	B	・学級で遊ぶ日を設定し実施することはできたが、毎日の声かけは効果を上げないことも多かった。 ・スマイルタイムを実施することで、様々な遊びに取り組むことができ、児童の遊びの幅が広がったが、月1回以上の実施はできなかった。 ・各種お便りによる啓発は徐々に効果を現しつつある。	・体育の授業で行った活動が、休み時間にも行えるよう、指導内容や実施方法を工夫する。 ・新体力テストの結果を児童に確認させ、体力向上のために外遊びが重要である事を認識させる。 ・学級全員で外遊びをする日を設定する。 ・月1回以上のスマイルタイムの実施を目指す。 ・引き続き各種お便りによる啓発を行う。

④教師力を磨く。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○教職員の資質向上	・ミドルリーダーの育成ができたか。	・お互いの資質向上のため、1年間に1回以上師範授業や校務分掌等に係る講話等に取り組む職員を100%にする。	・初任者対象の師範授業を計画的に行う。 ・研究授業を学期に1回以上実施し、授業研究会を行うことで授業力アップにつなげる。	A	・初任者対象の師範授業については、全員が行うことができた。 ・全員が研究授業・授業研究会についてグループ研・全校研とも丁寧に取り組むことができた。	・本校では、経験の少ない教員の割合が増えているので、授業研の授業者や実践発表者として経験を積んだりだけでなく参観日等の機会をとらえ、授業を参観し合い、授業についての意見交換ができるようにしたい。 ・主任委員会を定期的に開催し、内容を充実させていく。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
教職生活	小学校低学年の学習環境改善充実	・基本的な生活習慣・学習習慣の育成ができたか。	・授業の始まりを守ることを達成率90%以上にする。 ・元気あいさつや返事をするなどの達成率85%以上にする。 ・家庭学習を毎日する。達成率90%以上にする。	・休み時間に次の授業の準備をさせる。 ・定期的に自己評価をさせる。 ・話を聞く約束を意識させる。 ・学習習慣を身につけさせるために毎日の宿題を出す。 ・学級通信や懇談会を通じて、家庭との連携を図る。	B	小中一貫教育研究の取組で鳥栖西中校区3校で授業の始めと終わりの挨拶の統一をした。授業の始まりがきちんと守られ、授業態度もよくなってきた。また、麓っ子ががんばり週間を設定し、麓っ子ががんばり表の取組を継続させていく。	麓っ子ががんばり表の中での取り組みを継続していく。元気のよい挨拶や返事については、個人差もあるが、音読や群読をさせたり、日々のやり取りの中でできている子を褒めたり紹介したりしながら、取り組みを充実させる。
活教育	○小中一貫教育の推進	小中学校教員の相互理解ができたか	・研究企画委員会・拡大協議会を月一回以上実施する。 ・3校合同研究会を年2回以上行う。	・4月当初に、年間計画を立て、会議や打ち合わせを入れておく。 ・拡大協議会での決定内容については副部長を中心にして各学校で実践していく。	B	今年度も3校合同研究会を年3回(5月・8月・11月)行うことができた。また、小中一貫の研究企画委員会・拡大協議会を月1回程度実施することができ内容が充実してきた。	年度当初に年間計画を立てて、会議を実施したことがよかった。また、専門部の部長であるコーディネーター(主幹教諭等)が研究をリードし、各学校の実践を進めたことが効果的だったので、今後も継続させていきたい。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

○校内研で取り組んでいる国語科については、学力テスト等の結果などから指導法の改善や音読指導など基礎・基本定着をめざす研究に取り組んできた。授業づくりやスキルタイムの工夫で、少しずつではあるが、児童の力がついてきた。「日本語」の学習については、長野講師をお呼びしての実践研究や他校の実践例をもとに取り組んできた。児童の学力をつけるために計画的に取り組んでいく。
○小中一貫教育の研究については、本校での授業公開に2校の教諭が参加し、学習指導法や身の回りの生活指導等の共通理解を深めることができた。研究組織を改善し、各学校での実践の充実のために、専門部の活用や広報活動の工夫を進め取り組んでいる。
○いじめ・命を考える日の取り組みについて、児童アンケートを実施すると共に、全校集会や放送朝会・各学級での取り組みを充実させて、より効果的な取り組みとする。心の教育については、まず、週1回の道徳の充実をさせる必要がある。

●は共通評価項目、○は独自評価項目